

RS ウイルスワクチン予防接種のお知らせ

- 対象者 妊娠 28 週 0 日から 36 週 6 日までの妊婦の方
※過去の妊娠時に接種したことがある方も対象です。
- 接種場所 別紙「令和 8 年度 予防接種協力医療機関一覧表」のとおり
※事前に医療機関に予約をしてください。
- 回数 妊娠ごとに 1 回
- 持ち物 予診票 ・ 母子健康手帳
- 費用 無料（全額公費負担）
※キャンセルの場合、キャンセル料が発生する可能性があります。
※対象週数を過ぎると全額自費となります。

● RS ウイルス感染症とは

RS ウイルス感染症は、RS ウイルスに感染することによって起きる呼吸器の感染症です。2 歳になるまでにほぼすべての乳幼児が RS ウイルスに感染すると言われています。

感染すると、ウイルスの潜伏期間は 4～5 日を経て、数日にわたり発熱や鼻汁、せき、のどの痛みなど、風邪の症状が続きます。更に呼吸器の炎症が進み、細気管支炎や肺炎を発症する場合があります。小さなお子さん（新生児や乳幼児）が感染すると症状が重くなる可能性があります。

● 母子免疫ワクチンについて

新生児や乳幼児は免疫が未発達なため、感染症にかかりやすい状態です。しかし、妊娠中のお母さんから赤ちゃんへは、胎盤を通じて一部の抗体が移行し、生後 6 ヶ月まで赤ちゃんを感染から守る「母子免疫」が働きます。お母さんが RS ウイルスワクチンを接種すると、RS ウイルスに対する抗体が増え、その抗体が胎盤を通じて赤ちゃんに移行します。これにより、生後数ヶ月間、赤ちゃんは RS ウイルスから守られることが期待されます。

母子免疫ワクチンは、妊娠中にお母さんが接種することで、赤ちゃんに抗体を伝える仕組みで、生後半年くらいまで効果が期待されています。

■ ワクチンの種類と副反応

母子免疫ワクチンに使用する「アプリスボ」は、妊娠 24～36 週の方を対象として、筋肉内に 1 回注射します。接種によって作られた RS ウイルスに対する抗体が、おなかの中の赤ちゃんに移行することで、生まれてきた赤ちゃんの RS ウイルス感染症の重症化を予防する効果が期待できます。

副反応としては、注射部位の痛み・赤み・はれ、頭痛、筋肉痛、じんましんなどがあります。より重篤な副反応としては、血管迷走神経反射といって、血圧の低下や吐き気・失神などを引き起こす可能性があります。このような場合に、厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期の予防接種によるものと認定した時は、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。

■ 予防接種を受ける前の注意事項

- ① 通知等をよく読んでいただき、必要性や副反応について理解された上で接種をお願いします。わからないことは、予防接種を受ける前に必ず医療機関で確認しましょう。
- ② 予診票は接種する医師への大切な情報です。責任を持って記入しましょう。
- ③ 村から転出後は、村発行の予診票は使用できなくなりますので、ご注意ください。
- ④ キャンセルの場合、キャンセル料（ワクチン代など）が発生する可能性があります。
- ⑤ 対象週数を過ぎると全額自費となります。

■ 予防接種を受けることができない場合

- ① 発熱している方
- ② 重篤な急性疾患にかかっている方
- ③ ワクチンの成分に対し重度の過敏症の既往歴のある方
- ④ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けない方がよいといわれた方

■ 予防接種を受ける際、医師とよく相談しなければいけない場合

- ① 妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに高血圧症候群と診断された方
- ② 血小板が少ない方あるいは出血しやすい方、抗凝固療法を受けている方
- ③ ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれのある方
- ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全の人がいる方
- ⑤ 心臓血管系、腎臓、肝臓、血液等に関わる病気と診断された方
- ⑥ 腎機能障害、肝機能障害をお持ちの方

■ 予防接種を受けた後の注意事項

- ① 接種後30分は、注意深い観察が必要です。病院内でイスに座るなどして様子をみます。
- ② 接種した当日は、安静に過ごしてください。
- ③ 接種した部位を清潔に保ってください。接種した日に入浴しても問題ありませんが、体を洗うときに接種部位をこすらないようにしてください。
- ④ 接種部位の変化、接種後の体調の変化に注意してください。
- ⑤ 接種部位の異常や体調の変化、高熱、けいれんなどの異常な症状がみられる場合には、すみやかに医師の診察を受けてください。



【お問い合わせ先】

南箕輪村役場 こども課 母子保健係
TEL：0265-98-8310